



神金公民館だより

第158号

2023年
5月1日



3月下旬にはスモモの花が咲き始め、続いてモモの花も咲き出し、花々が咲き誇るまぶしいくらいの春が、いつものように神金の地にやってきました。車で行き来しながら見渡す景色は、神金の最も美しい季節ではないかと感じました。

同時に、農家の方々にとっては、花摘みや授粉作業などの農作業に忙しい日々のスタート時期がやってきたようです。



大久保平を会場に様々な芸術・アートを発表する
展覧会「第9回大菩薩の風・ビエンナーレ」が開催
されます。

展示内容や開催イベントについては、Instagramで
チェックしてください。チラシの中のQRコードから
確認してください。

第9回
大菩薩の風
ビエンナーレ

2023.5.25(木)～5.31(水)
10:00～17:00
山梨県甲州市塩山山萩原大久保平 各会場にて

～美と音を風にのせて～
緑豊かな大久保平をまるごとミュージアムに
アートを中心にさまざまな表現を自由に発表する展覧会です
大菩薩の美と音を自然の中でお楽しみください

自然の中のアートヴィレッジ
大久保平をめぐる
芸術散歩

入場無料

Instagramで「大菩薩の風」情報をチェック!
アーティスト紹介やイベント情報をアップしていきます
～次回の「大菩薩の風」展は2025年5月に開催予定～

EVENT

<p>バベットシアター「ハレとケ」 (シカジルシ)</p> <p>日時：5/27(土) 15:45 開場 / 16:00 開演 5/28(日) 13:45 開場 / 14:00 開演 会場：No.19 ナチュラルカフェドッグラン内 参加費：投げ銭</p>	<p>森のお話会 / 皮むき間伐体験 (きらめ樹あゆみ会)</p> <p>子どもでも出来る間伐の体験会でリフレッシュ 日時：5/28(土) 9:00～12:30くらいまで 会場：ZONE1 森の中 定員：12人 参加費：大人¥1000/子ども¥500</p>	<p>ツリーハウスで竹細工を作ろう (おらんとうの森)</p> <p>展覧会期間中不定期にツリーハウスを制作して います。一緒に竹細工を作って遊びましょう。 会場：No.29 おらんとうの森会場 参加費：無料</p>
<p>写真教室～花を撮る～ (向山蘭園)</p> <p>写真家の古屋光雄さんから花の撮影を学びます 日時：5/27(土) 5/30(火) 14:00～16:00 会場：No.26 向山蘭園神金農場温室 定員：30人 参加費：無料</p>	<p>～記録写真ワークショップ～ (古屋光雄)</p> <p>参加方法：会期中の毎日午前10時と午後1時 にナチュラルカフェで概要を説明 参加費：無料 ※入賞者には記録写真集を贈呈します</p>	<p>音楽ライブイベントも開催します!!</p> <p>5/27(土) 28(日)を中心にナチュラルカフェを メイン会場にしてライブイベントを開催 します。アート&音楽をお楽しみあ ください。 詳細は右のQRコードよりイベントの 告知ページを参照してください</p>

神金トピックス&ニュース

春の例大祭



神金の春には欠かせない神部神社と金井加里神社、そして浜松神明社の春の例大祭が絶好の天気の中で行なわれました。

金井加里神社では、子どもたちにお祭りを楽しんでもらえるよう、子ども神輿のみが練り歩きました。



福蔵院不動尊会

4月2日、福蔵院で不動尊会が稚児さんが参加し華やかに行われました。

福餅まきには、大勢の方々が参加し、護摩祈祷された福をもらっていきました。



神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

山 六

治山治水というが水も治まるものであって、山を治めることが水害を避ける要因である。御料地に取り上げられて以来、山を守るどころか山を焼いて意趣晴らしをしたため、大雨が降れば山は崩れる一方であった。明治四十年の大水害は白い崖崩ればかりの山にしてしまった。この水害における被害は、死者・行方不明者二百三十二名、流された家一万一千九百四十三戸、田畑・宅地の流失埋没七千六百四十六町、この外被害額は計り知れない状態であった。特に萩原山一帯はマサ土という石と砂ばかりの山で、立木もなかったため被害はとりわけ酷かった。翌四十一年三月、県令が臨時議会を招集し、四百三十八万円の災害復旧費が計上されたが、笛吹川流域の治水工事費は一百六十二万円で釜無川はその半分であった。笛吹川でも支流重川が被害甚大であった。怨と怒をこめた実力行使によって、思いは晴らしたが山が白く裸になった姿を見て、流石に気の荒い入会の人達も感慨無量のことであったと思う。

東山梨郡では、郡役所の前庭で郡民大会を開き、被害者の救済と災害復旧を速やかにするよう陳情することを決議した。県でも舞鶴城内にて県民大会を開き郡同様の決議をし中央政府に陳情した。この水害で田畑を失った人達は北海道に移住した。県下で六十戸、神金でも二十戸が新天地を求めて移住した。

明治四十年の災害復旧がまだ完成しない四十三年八月、県下一円に再度大洪水が襲った。再び県民大会が開かれたが、御料林の経営が宜しきを得なかったため、山が荒廃し水害を一層大きくしたのである故に、もとの入会住民に下げ戻す請願が決議された。歯に衣を着せず思いあまっの決議である。同年十一月の県議会上に於いても御料林下げ戻しの動議が満場一致

で採択され、内務大臣に意見書が提出された。その内容は、

「本県が大災害を被ったのは、当時の当局者の思い違いから民有地を取り上げ官地とし更に御料林としたことが誤りで、住民の愛林思想を喪失した結果である。よって入会御料林の全部を無償にて御下げ戻しを仰ぎたし」

と、天皇家を恐れず真実を訴えた山梨県民の声を代表したものである。山梨県民の永年にわたる不屈の反抗に加えて、大水害により御料林も収入を得るところか保護管理と災害復旧に莫大な費用がかかるので、下げ戻し運動をよい機会とし渡りに舟であった。

*次ページに続く

神金の歴史

明治四十四年三月十一日、明治天皇は特別の思召しをもって「山梨県下累年の水害の窮状を救うため」と県下入会御料地二十九、八二〇三町（実測一六、四〇〇〇町）を山梨県にご下賜なされた。毎年三月十一日を恩賜林記念日として学校は授業を休み、校長先生がお沙汰書（各学校の職員室に額に入れて掲示してあった）を読み、天皇陛下の大御心の有り難さを説教し、子供達は帰りに小判型のパンを貰ったものである。その折の歌を思い出すに『山萌水は逆巻きて、うまし田畑を押し流し、うつろい変わる国原や、茂る民草色あせぬ…』以上は第一節で三節までであったが、懐かしい思い出のメロディーである。現在当時の記録を見るに聖恩添けない、恩賜、有難く、感涙の極み等々あるが、決して有難くも嬉しくもないのである。強い権力を持って取り上げたが、住民の抵抗と大水害で手のつけられない程荒廃したものを返したただけなのでお礼を言う必要はないのである。それにも拘わらず謝恩塔が甲府駅前の城趾に高く聳え立っている。

謝恩塔は大正六年着工、十一年九月に完成した。六ヶ年の歳月と九万九千五百二十八円の費用をかけたのである。石は神金の石山から塩山駅まで運び、更に甲府駅まで貨車で運んだものである。有難くも感謝の念もない謝恩塔である。ご下賜の年九月三日、萩原入会十ヶ村組合は大藤村の法正寺に於いて萩原入会人民大会を開催した。参加者は二五〇〇名を数え、境内を埋め尽くす盛会ぶりであった。議長に三枝吉包氏を選び次のことを決議した。



一、萩原山入会権は従来 of 慣行を尊重し、入会団体の権利を減殺することのなきを期す。

二、恩賜林県有財産のうち萩原山の一部を東京市に譲渡の契約を締結せし由については、入会関係村のために既得の権利を完全に保留することを期す。

以上の二ヶ条を決議し、山梨県知事に提出した。県に御下賜になり県有の山になったが、入会権が消滅することを恐れ、これを擁護するために住民の大会を開き入会権の再確認を求めるために、県知事に大会の名において萩原十ヶ村組合の存在を示したもめである。入会住民の共有林であったものが三十年余の歳月を閲し、その間幾多の紆余曲折を経て山梨県の所有になったことにより萩原入会十ヶ村組合は消滅し、新たに「神金村外二ヶ村恩賜県有財産保護組合」となり、大藤村中萩原に組合役場を設置した。